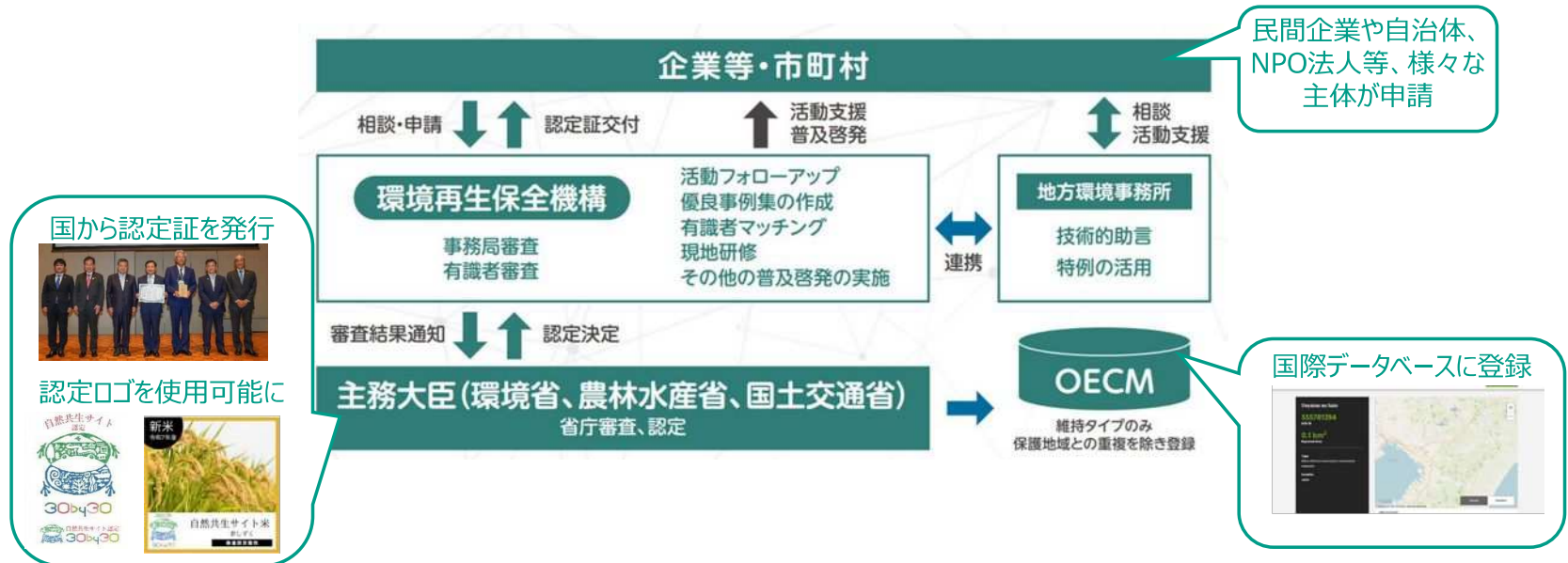


# 自然共生サイトとは

- 2030年までに生物多様性の損失を止め、反転させる「**ネイチャーポジティブ**」を実現することが、世界目標となっている。
- ネイチャーポジティブ実現に向けた重要な目標の1つが、陸と海の30%以上を保全する「**30by30目標**」。
- 法律で規制する保護地域だけでなく、「**保護地域以外で生物多様性保全に資する地域 = OECM**」を増やすことが目標達成の鍵。
- 日本ではOECMとして、**民間等の活動により生物多様性保全が図られている場所**を「**自然共生サイト**」として**国が認定**する仕組みを運用（令和5年認定開始、令和7年法制化）。

OECM=Other Effective area-based Conservation Measuresの略

## <認定スキーム>



# 自然共生サイトの認定状況

- 令和8年3月末時点での**自然共生サイト**は合計**569**か所。
- 申請主体は**企業が約半数**で、地方公共団体やNPO等様々な主体が参画。
- 保護地域に指定するのは難しかった**里地里山**や**企業の保有する山林**、**社寺林**、**都市緑地等**も生物多様性の価値を国が認め、世界目標の達成に貢献する場所として登録が可能となった。

## <認定された「自然共生サイト」の例>



盛岡セイコー工業 わくわくの森  
・わくわくトープ (岩手県)



つくばこどもの森保育園  
(茨城県)



三井住友海上駿河台緑地  
(東京都)



日本製紙 鳳凰社有林  
(山梨県)

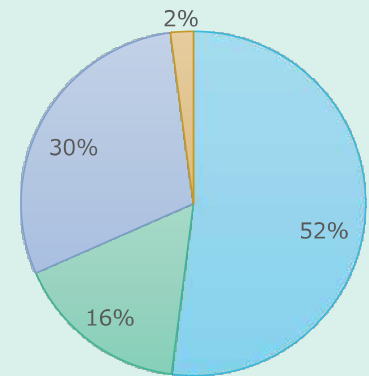


コウノトリ育む祥雲寺水田と  
ピオトープ (兵庫県)



山川の海のゆりかご  
(鹿児島県)

## <申請主体の内訳>



■ 企業                      ■ 地方公共団体  
■ NPO等の他団体      ■ 個人

# 自然共生サイトに認定されるとどうなるの？

## ◆30by30目標達成に貢献する

- 自然共生サイトの区域のうち保護地域との重複を除いた面積を国際OECMデータベースに登録。
- 行為規制を伴わず、生物多様性の価値がある場を公的に評価。



出典：Protected Planet

## ◆社会的な発信ができる（主に企業）

- 企業経営においても、自然資本への依存やリスクを評価し、生物多様性保全に積極的に取り組むことが求められている（TNFD開示等）。




**TNFD情報開示**  
提言やガイダンスに沿って  
TNFDレポートの作成

## ◆活動に対する支援を受けやすくなる

- 国による認定を受けることで、民間企業等からの支援を呼び込みやすくなる。
- 環境省で支援マッチング、企業へのインセンティブとなる支援証明書の発行も可能。
- 生物多様性保全推進支援事業（交付金）や各種モデル事業等公的支援も。

生物多様性地域戦略等の自治体の計画とも整合するとさらに効果大！



出典：兵庫県ウェブサイト

## ◆広告効果、ネットワーク形成

- ロゴマークの使用等により、国の認定を受けたことをPR。
- 生物多様性保全に対する社会の関心が高まるほど、社会的評価が高まることに期待。
- 自然共生サイト間のネットワーク形成も可能。

出典：横枕農園ウェブサイト

自然共生サイト検索ナビ